



調査結果について

令和 4 年 2 月 2 4 日



- 令和3年 9月 6日：中間報告書を町に提出
- 令和3年 10月 7日：双葉町議会へ説明
- 令和3年 10月 26日～令和3年 11月 27日：
県内外 11箇所で町政懇談会にて住民等へ説明
- 令和3年 12月 1日：長崎大学と包括連携協定締結
- 令和3年 12月 9日：町政懇談会で頂いた意見等を
双葉町議会へ報告
- 令和3年 12月 9日：国と令和4年 1月 20日に準備
宿泊をすることを合意
- 令和4年 1月 20日：準備宿泊を開始
(昨日時点まで、のべ18世帯25名が登録)

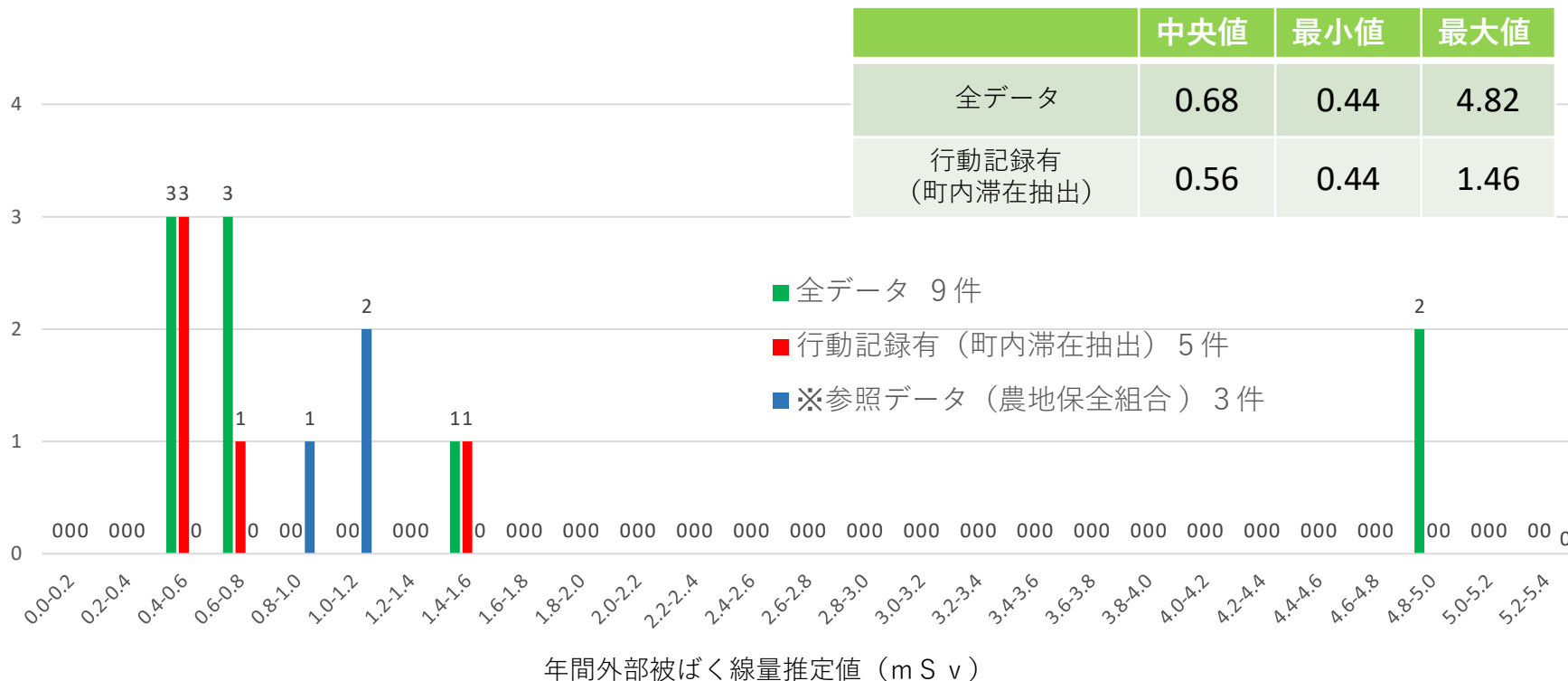
- 避難指示解除区域及び特定復興再生拠点内の 6 箇所から地下水（井戸水）を採取し放射能濃度の調査を行いました。

採取箇所	放射能濃度 C s -134 (B q/k g)	放射能濃度 C s -137 (B q/k g)	検出限界値 C s -134 (B q/k g)	検出限界値 C s -137 (B q/k g)
駅コミュニティセンター	不検出	不検出	0.83	0.97
寺内前霊園	不検出	不検出	0.97	0.88
下長塚地区	不検出	不検出	0.76	0.98
中田地区	不検出	不検出	0.93	0.99
両竹地区	不検出	不検出	0.87	0.98
三字地区	不検出	不検出	0.99	0.86

準備宿泊期間中の個人被ばく線量測定結果について

3

- 準備宿泊を行っている町民の方々にDシャトルを携帯いただき、測定された線量データについて集計を行いました。
- 全体のデータから推定された年間外部被ばく線量（全データ）及び行動記録があり町内滞在時のみ抽出したデータから推定された年間被ばく線量（行動記録有・町内滞在抽出）は以下の通りでした。

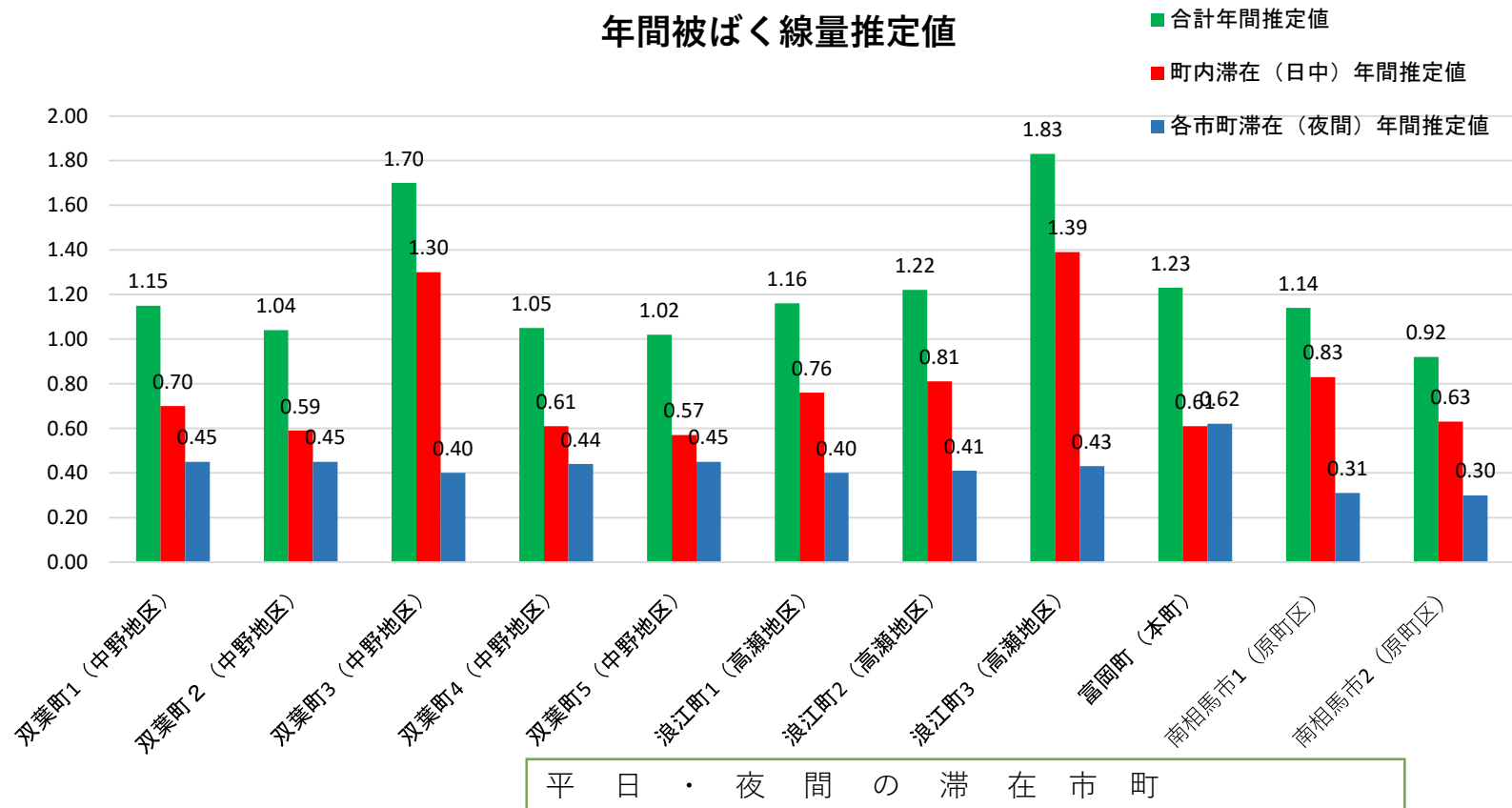


※年間被ばく線量推定値は自然放射線量を含む値です。

※測定者は常時Dシャトルを携帯していない場合もあり、必ずしも各個人の外部被ばく線量を正確に反映しているわけではありません。

- 町内での復興事業等従事者を対象にDシャトルにより約1ヶ月間（土・日除く）の集積線量を集計し、年間被ばく線量推定値を算出しました。
- 行動パターンは、各市町から町内へ車で通勤し日中（町内に約9時間滞在）は特定復興再生拠点内の復興事業等に従事し夜間は各市町に滞在します。
- 双葉町1・2・3・4・5は日中は帰還困難区域内の作業も含まれています。
- 浪江町1・2・3（高瀬地区）は解体除染業務に従事しています。

年間被ばく線量推定値



※年間被ばく線量推定値は自然放射線量を含む値です。

※端数処理により計算が合わない場合があります。

- 除染後の線量の平均が出ているのですが、町内で実際に生活した時の被ばく線量の算出方法（計算式）を知りたい。
- 拠点外の地区から河川を通して流れてきているのではないかな。
- 避難指示解除するための年間積算線量 20 mSv 以下は安全なのか。
- ホールボディーカウンター等の検査を継続してほしい。
- 放射線量の状況は地表から 100cm となっているが、放射性物質は地表に落ちるのだから地表面を測るの必要があるのではないかな。
- 「放射線被ばくのリスクは十分低いと考える」と記載されているが、裏を返せば安全ではないという風に読み取れるのではないかな。